

岡山桃太郎の生みの親 難波金之助

附：吉備路の昔の絵図

岡山市の鋳金家、難波金之助は「桃太郎の昔話の史実は岡山にある」と初めて唱えて普及に努めたことから「岡山桃太郎の生みの親」と称されています。

そこで、当館および岡山市立中央図書館の所蔵資料と、当館への寄託資料（個人蔵）によって、幅広い社会活動を行った彼の人物像を紹介します。

（1）難波金之助が「岡山桃太郎」を思い至ったきっかけ

昭和5年に陸軍特別大演習が岡山県で開催されると、演習場とされた吉備路に関心が集まりました。このとき難波金之助は、桃太郎の昔ばなしが、現在、吉備路と称される地域（岡山市、総社市、倉敷市にまたがる史蹟の豊富な地域）に伝わってきた吉備津彦命きびつひこのみことの温羅退治伝説に符合することに思い当たり、桃太郎の話はこの地域に史実を有すると考えました。

彼はそれを、吉備津神社の郷土玩具「吉備津のこまいぬ」から着想しましたが、さらに「吉備津神社記」などの文献を読み、カメラを持って吉備路の史蹟を巡りました。

そして難波金之助は、昭和5年に著書『桃太郎の史実』（正・続）を公刊し、「吉備の桃太郎会」を結成して普及活動を始めました。このときから彼は、吉備津神社の秋の例大祭にあわせて訪問団を組織し、吉備路の史蹟を案内したほか、岡山桃太郎の普及のための多彩な催し（講演会、演奏会など）を行いました。

（2）難波金之助の幅広い社会活動

難波金之助は、岡山桃太郎を着想する前の大正期から、ボーイスカウト活動に熱心に取り組んでいました。そしてポーランドの医師、ザメンホフが人類の共通語となるように考案して1887年（明治19年）に発表したエスペラント語に触れると、その普及活動に傾倒し、岡山エスペラント会の幹事を引き受けて奔走しました。そしてハンセン病患者の療養施設、長島愛生園の医師がエ

スペランティストであったことから施設を熱心に慰問するようになり、患者のために音楽会や舞踊鑑賞会を企画しました。また、児童保育に関心を寄せ、童謡や童話の採集と創作に力を入れて児童放送劇を作成し、たびたびラジオに出演していました。そして本業の彫刻（鋳金）の分野でも、岡山洋画研究会の一員として活動していました。

難波金之助のこうした多彩な活動を知るには、彼が残した新聞スクラップ帖（個人蔵、当館寄託品）が貴重な手がかりです。

そうしてみると、彼が岡山桃太郎を唱えたとき、念頭には青少年の健全な育成があったとみられます。心底から世話好きであった彼は、生涯を通じて多彩な社会活動を行いましたが、それらの基底には暖かな人間愛が流れていたようです。この展示ではそのことを資料によって示しながら、「岡山桃太郎」が生まれた背景を考えます。

おもな展示品

郷土玩具「吉備津のこまいぬ」 当館蔵



難波金之助のカメラと写真アルバム 個人蔵（当館寄託品）



藤井空之助（著）『吉備津神社記』（大正 15 年） 岡山市立中央図書館蔵

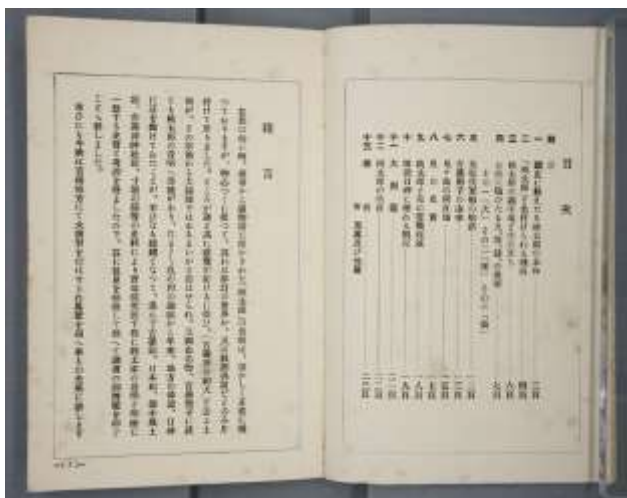


難波金之助（著）『桃太郎の史実』（昭和 5 年） 岡山市立中央図書館蔵

難波金之助（著）『続稿 桃太郎の史実』（昭和 5 年） 個人蔵（当館寄託品）



『桃太郎の史実』の表紙



緒言

吉備の桃太郎会の案内状（第2回：昭和6年、第3回：昭和7年） 岡山市立中央図書館蔵

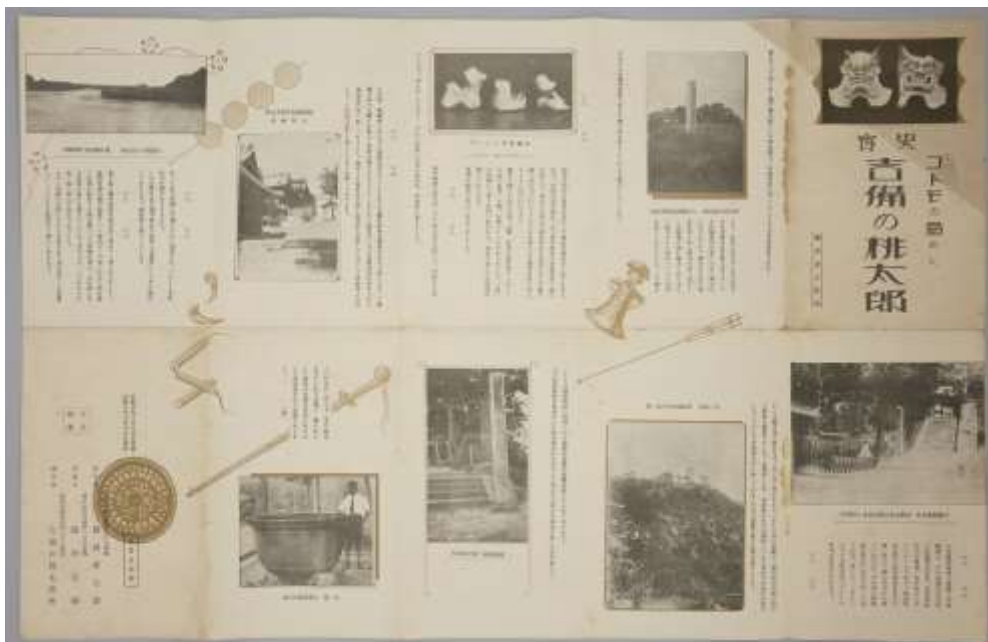


第2回



第3回

パンフレット「コドモの為に 史実吉備の桃太郎」昭和6年版 個人蔵（当館寄託品）



林文雄（著）『世界の癩を訪ねて』、『世界癩視察旅行記』（昭和9年） 岡山市立中央図書館蔵



著者は長島愛生園の医務課長で、冒頭に難波金之助への献辞が書かれています。

難波金之助（著）『憶ひ出』（昭和21年） 岡山市立中央図書館蔵



難波金之助が採録した童謡と童話がまとめられています。

難波金之助の新聞スクラップ帖 個人蔵・当館寄託品



(3) 吉備路の昔の絵図

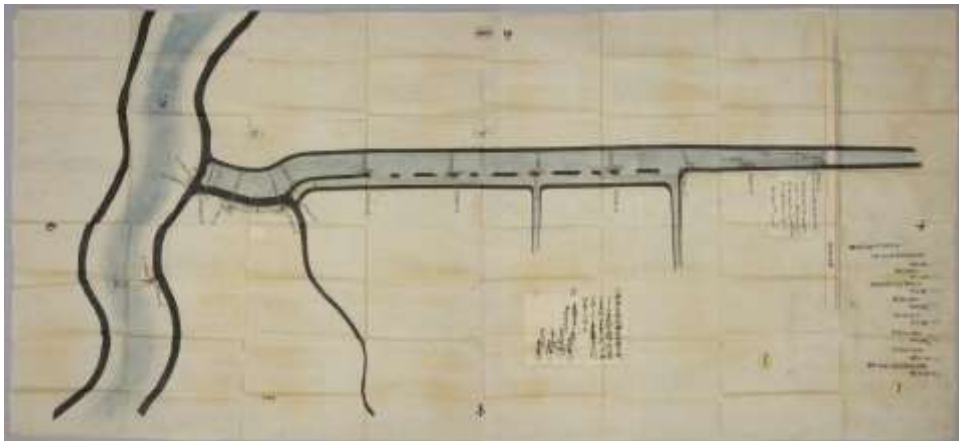
難波金之助が踏査したときの吉備路は、どんな様子だったのでしょうか。開発が進む前の様子を描きとどめた絵図は、地域の昔を知るのに大切な資料です。

吉備路では、御津郡白石村が昭和 27 年に、御津郡一宮町、同津高町、吉備郡高松町が昭和 46 年 1 月に、吉備郡足守町が昭和 46 年 5 月に岡山市へ合併されて現在に至っています。このうち白石村、一宮町、高松町は多数の歴史的公文書が岡山市史の編纂などの機会を経て岡山市立中央図書館へ移されて保存されており、その中から江戸時代の宝永年間から明治時代までの絵図を展示します。内容は、江戸時代の国境や村境の画定に関わるもの、明治 8 年の地租改正以後に整備された土地台帳（地籍）に伴うもの、河川・用水・堤塘の管理に関わるもの、柴草採集のための共有の野山が明治期に分割され村境が設けられたときの実測図などです。

おもな展示品

「備前国津高郡今保村久米村備前国賀夜郡延友村国境取為替絵図」および「証文」

岡山市立中央図書館蔵



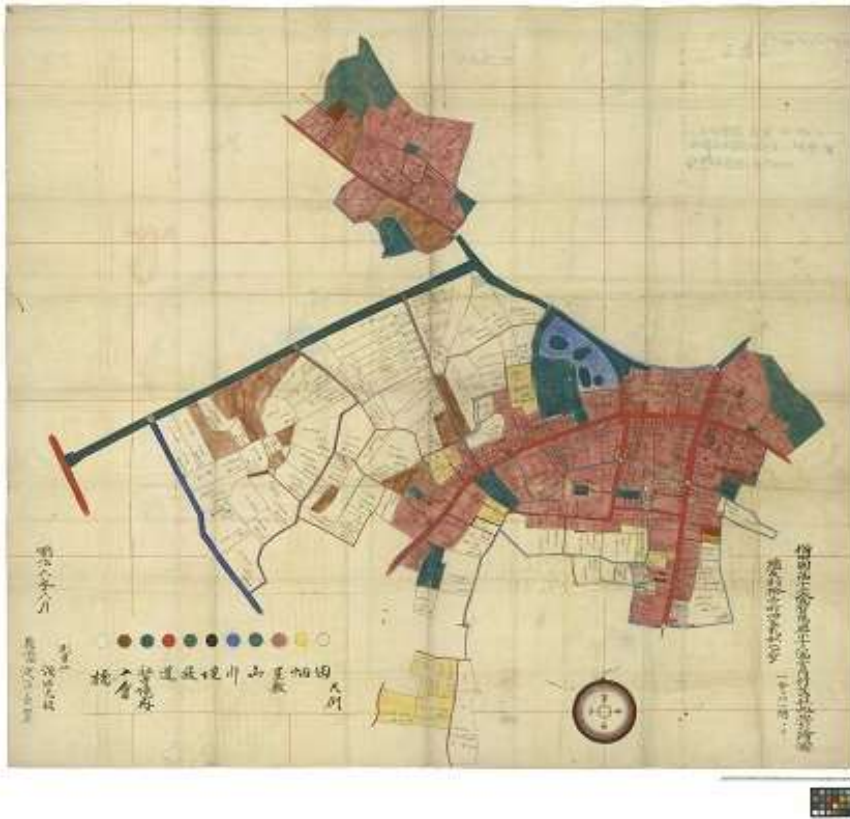
絵図



証文

この絵図と関連の証文は、足守川に注ぐ境目川で、備前国と備中国の国境にまたがる今保村、久米村、延友村の境界の画定に際して作成されたものです。岡山藩の留方で作成された藩政の手引書、『撮要録』にも筆写されています。

「備中国第十三大区賀陽郡小十六区宮内村旧社地^{じびき}地引絵図」 岡山市立中央図書館蔵



吉備津神社の社領であった門前町の宮内村が、明治維新で上地（領地の返還）をされたときに作成された絵図です。明治6年の時点の宮内の街並みがうかがわれる絵図で、芝居などの遊興の場として栄えた門前町の様子がうかがえる貴重な図です。旧真金村から旧一宮町を経て伝わってきたものです。